



宇城市企業クラブが9月14日に社員研修会を開催しました。研修会のテーマは「職場における人権問題」。講師の熊本県人権教育研究協議会社会教育部会事務局長の坂本みゆきさんが、自らの経験を基に、職場でのハラ・スメントが従業員にもたらす影響や、意図せず加害者となる危険性について話しました。

宇城市企業クラブが社員研修会を実施しました

パートナーシップ通信

vol.168
人権啓発課男女共生係 ☎32-1708

参加者募集!

1 講演会 東日本大震災から7年 ～「編んだもんだら」から見た被災地復興の歩み～

被災した人々の夢や思いに寄り添い、立ち上がるための仕組みづくりに奔走する足立千佳子さんの取り組みを通して、身近なところから始められる復興について考えてみませんか。

日時 11月20日(火) 14時～16時
場所 市役所新館 第3会議室



講師 足立千佳子さん
東日本大震災後、被災地支援活動「さざほざ」プロジェクトを立ち上げ、女性支援の視点から、手仕事・食・情報の3本柱で活動を展開している。

◆ 共通事項 ◆

参加費 無料
申込方法 電話 申込期限 11月12日(月)
☎ 人権啓発課男女共生係 ☎32-1708

2 男性のための家庭科塾 ～魚料理教室と裁縫教室～

毎年大人気の魚料理教室に、今年は裁縫教室をセットにして開催します。

男性に苦手な人が多い裁縫。日常生活で、特に必要な「ボタン付け、裾上げ」を講師が優しく教えます。既婚未婚を問わず、生活に必要なスキルを身に付けませんか。



魚料理教室

日時 11月24日(土)10時～13時
場所 中央公民館

裁縫教室

日時 12月15日(土)10時～12時
場所 インダストリアル研修館

◆ 共通事項 ◆

対象 市在住または勤務の男性
定員 15人(両日参加できる人を優先)

◆ 相談受付 ◆

子ども福祉課(相談員対応)
☎32-1404
日時 平日 9時～16時
(金曜は15時まで)
熊本県女性相談センターDV相談
☎096-381-7110
日時 平日 8時30分～22時
(土・日・祝日は9時から)



せん。この期間をきっかけに、暴力のない社会づくりを進めましょう。

DV(配偶者からの暴力)には、身体的・精神的・経済的・性的なものがあり、内閣府の「平成29年度男女間における暴力に関する調査」によると、調査対象の女性の4人に1人がDVを経験し、10人に1人が繰り返し暴力を受けています。また、「デートDV」と言われる交際相手からの暴力も起こっています。どんな理由でも暴力は決して許されるものではありません。

女性に対する暴力をなくす運動週間
11月12日～25日

賢く みんなの 年金学

熊本東年金事務所 ☎096-367-2503
市民課 国保年金係 ☎32-1417

社会保険料(国民年金保険料)控除証明書が発行されます

～年末調整・確定申告まで大切に保管を～

国民年金保険料を納付した人が社会保険料控除を受けるには、年末調整や確定申告の際に「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」(または領収書)を添付することが義務付けられています。



社会保険料控除の対象
その年の1月1日～12月31日に納付した国民年金保険料全額

- 国民年金保険料を納付した人には、「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」が日本年金機構本部から11月上旬に届きます。平成30年10月1日～12月31日に今年初めて国民年金保険料を納付した人には、平成31年2月上旬に届きます。
- 家族の国民年金保険料を納付した場合でも、納付した人の社会保険料控除に加えることができます。家族宛てに届いた控除証明書を添付の上、申告してください。

「社会保険料(国民年金保険料)控除証明書」についての問い合わせは 熊本東年金事務所 ☎096-367-2503
ねんきんダイヤル ☎0570-003-004

今年の夏、宇城市が開催した水俣病の現地研修会に小中学生と一緒に参加しました。訪れた先の一つ、月浦地区は海水の透き通る静かな入り江の港町です。1956(昭和31)年、ここで船大工をしていた一家の姉妹が突然歩けなくなるとの症状を相次いで発症。受診した病院の医師が「原因不明の病が発生した」と保健所に届け出た5月1日が水俣病公式確認の日となりました。しかし、国が公害として認定したのは、それから12年も経過した1968(昭和43)

地域人権教育指導員
ひるみち 本田 博通



私が以前、学校で働いていた経験から得たことをお伝えしていきます。

みんなで学ぼう
じんけん

生涯学習課
人権教育係
☎32-1934

今年、「公害の原点」とされる水俣病は認定から50年を迎えました。現地で学習した子どもたちが、その学びを家族や友人へと広げながら、これからも人権について学び続けることを願います。

研修会で子どもたちは、まだ就学前だった姉妹に思いを寄せながら、講師の話に耳を傾けました。「今でも妹さんは水俣病と闘っているの、負けないでほしいと思います。自分の目で見たことを、水俣病を分かっている人に伝えていきたいです」。参加した中学生の感想文の一節です。

子どもたちと学ぶ水俣病
「公害認定から50年」